

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

KECA ニュース =No.57=

【巻頭言】

**定款の目的：環境保全活動と経済活動の活性化で
地域へ貢献するKECAの仕組みづくり**

理事長 河野 健三

2016年度第20回通常総会は、来る5月14日(土)、13時から横浜・波止場会館で開催いたします。2016年度は中期計画の最終年度となります。これまでの委員会活動、支部活動、事務局活動を振り返り、2017年以降の活動を考える1年にしたいと思います。

KECAは1999年11月にNPO法人の認証を取得し活動しておりますので、2019年には20周年を迎えます。2015年度総会において定款変更を行い、活動の目的に従来の環境の保全を図る活動に経済活動の活性化を図る活動を加え、事業も(1)環境経営支援事業(2)環境教育事業(3)地域の事業者への支援事業(4)自然環境保全事業の4事業に分類しました。



KECAとして環境と経済の両立(環境も大事!経済も大事!)を目指し、これまでの活動を更に発展させていくためにはどのような組織・運営を行っていけば良いのか検討する時期に来ていると考えています。会員の皆様のご支援・ご協力を得ながら進めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

1. 委員会活動・支部活動の見直しと、その枠を超えた活動の取組み

現在の委員会活動、支部活動の組織は2003年に開始され10数年経過しました。この組織の活動により今のKECAがありますが、現在の会員の皆様、事業者の皆様のニーズに答えられているか、あらためて検討する時期に来ていると思います。(1)会員各位が活動の場を広げること(2)受益者たる市民、行政、事業者から受け入れられる活動ができることを目的に委員会活動、支部活動の見直し、更にそれぞれの枠を超えた活動も必要であると考えます。これからKECA(環境カウンセラー)として何をやるべきか、何ができるか、どのようにやっていけば良いのか、検討していきましょう。

2. これまでに培われた事業の概要と今後の進め方

(1) 環境経営支援事業

1) EA21 コンサル事業はKECAの財政基盤を支えてきました。2010年以降の収入減少による経費節減意識の浸透は、少なからずKECAの活動へ影を落としてきたのではないかと考えていますが、環境管理委員会のご尽力により2014年以降回復傾向にあり、支部による顧客開拓も開始されました。

目 次

P1 環境保全活動と経済活動の活性化で地域へ貢献する KECAの仕組みづくり・・・ 理事長 河野健三	P6 鶴見川クリーンセンター見学・・・横浜支部 太田芳雄 千葉雅子
P2 環境カウンセラー活用を要望・・・副理事長西村堅一郎	P7 子ども環境体験教室の開催・・・横三支部 高橋弘二
P3 関東地区環境カウンセラー研修 環境教育 高橋弘二	P8 2016年度支部活動計画・・・湘南支部 中本正治
P3 市民環境活動報告会・・・環境教育委員会 高橋弘二	P9 東海大学において環境カウンセラーの 魅力を解説・・・西湘支部 早野木の美
P4 理事会 in 県央支部 工場見学・・・県央支部 高山 進	P10 事務局だより・・・事務局長 森田 守
P5 2016年度に向けて・・・化学物質委員会 石井員良	
P5 安全衛生管理の基本について・・・環境経営委員会 近藤勝養	

2) 環境経営支援事業としては、環境教育委員会による「事業者向け環境経営セミナー」、化学物質委員会による「化学物質のリスクアセスメントセミナー」、環境経営委員会による「eco 検定試験対策セミナー」に加え「安全衛生管理の基本セミナー」がスタートしました。

(2) 環境教育事業

1) 環境教育委員会による「環境教育インストラクター養成（応募資格取得）セミナー」は、前回の KECA ニュースでお知らせしたように広く認知された KECA の目玉事業です。受講者に対する「フォローアップセミナー」も実施しており、セミナー内容の充実により、参加者は全国に亘っています。

2) その他環境教育事業は、小中学校への出前授業、地域イベントへの参加等、各支部において行われています。特に横須賀三浦支部では保育園での「エコ育」や、小中学生の土曜体験プログラム“すかつ子セミナー”などを実施しており、KECA のお手本となる活動です。ほかの地域へ広げるには地道な努力と長期的な視点で検討する必要があります。

(3) これまでに培われた事業の「見える化」と参加希望会員の勧誘

以上、各委員会、各支部の活動をまとめて見える化し、参加希望会員への情報提供等、会員が活動の場を広げていけるような取組みを検討します。

3. 健全財政の維持と今後の進め方

1) KECA は NPO 法人として持続可能な事業を先輩から受け継いできています。その事業は EA21 事業にほかなりません。この事業を始められた諸先輩のご尽力に思いを致し、EA21 事業により環境と経済の両立を目指す、これが KECA の使命ではないかと考えています。

2) 昨年度の総会では健全財政の維持を目指して、財務局の新設、管理費の削減、寄付金の募集、報酬と支払基準の明確化等が掲げられており、それぞれ検討してきましたが、今後、更なる検討を要するのは「報酬と支払基準の明確化」と考えております。

2010 年以降の経費節減により、役員報酬、当番手当、講師への謝金等を削減、廃止してきました。これからの KECA を継続させていくためには、会員の総意として、「KECA のために汗を流してくれた人には報いる」との基本的な考え方で「報酬と支払基準」を決める必要があります。

◇◇◇◇◇ **◇◇◇◇◇*** **◇◇◇◇◇*** **◇◇◇◇◇***

【NPO 法人環境カウンセラー全国連合会 (ECU)】

自治体等に環境カウンセラーの活用を要望

平成 27 (2015) 年 3 月、環境省総合環境政策局環境計画課で、「自治体のための地域人材活用マニュアル～環境カウンセラー編～」を発行しました。内容は「環境カウンセラー」の概要と環境カウンセラー（等）で構成されている各地の NPO 法人の協（議）会の活動事例が紹介されています。また同年 12 月、NPO 法人環境カウンセラー全国連合会では、佐々木進市理事長名で環境カウンセラー活用の「要望書」を作成しました。主な内容は

環境カウンセラーの一層の活用を

各環境カウンセラー協会・協議会との連携をお願い致します。

環境審議会・関係委員会等の委員に、環境カウンセラーを加えていただきますようお願い致します。



【委員会報告1】

2016年度に向けて

化学物質委員会委員長 石井 員良

2015年11月14日、当委員会主催で開催した「化学物質のリスクアセスメントセミナー」は、アンケート調査の結果、たいへん好評であったので、2016年度も化学物質に関するセミナーの開催に向けて、積極的に取り組んでいきたいと考えています。その他にも、KECAのホームページの活用のためのアイデアも会員から様々提案されていますので、実現に向けて検討しているところです。ご期待ください。

さて、皆さんは、化学物質がどのくらい存在するかご存知ですか？

アメリカ化学会の登録システムに登録された化学物質（無機化合物及び有機化合物）は、CAS番号を与えられますが、2016年2月末現在、その数は約1億850万に達しました。

このうち、工業的に生産されているのは、約10万物質、年間1,000トン以上生産されている化学物質は、約5,000物質といわれています。また、日本で労働安全衛生法等の法律の対象とされている化学物質は、約60,000物質です。これらの化学物質を管理することの困難さがお分かりいただけると思います。

化学物質の名称は、基本的に、IUPAC（International Union of Pure and Applied Chemistry、国際純正・応用化学連合）命名法により命名されますが、化学物質を生産流通する過程で、様々な別名（苛性ソーダ、苛性カリ、硫酸、硝酸、苦土石灰、消石灰、生石灰等多数存在）が生まれます。

例えば、ドライクリーニングの溶剤として使われていたテトラクロロエチレン（ C_2Cl_4 ）は、1,1,2,2-テトラクロロエチレン、ペルククロロエチレン、パークレン、四塩化エチレンの別名を持っています。また、法令上では、PRTR政令番号1-262、CAS番号は127-18-4です。

化学物質の性質等を調べる場合、インターネットで手軽に利用できる情報提供システム、例えば化学物質総合情報提供システム（CHRIP）（独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）提供）は便利ですが、別名を入力すると「対象データがありません。」という結果になる場合があります。

また、異性体が存在するキシレン（ σ -、 m -、 p -キシレン）の場合、キシレンを入力すると、キシレンに関連する物質が328件も表示されますので、目的の物質を見つけるのに手間がかかる場合があります。

このような場合でも、化学物質のCAS番号を入力すると、目的の物質を容易に見つけることができますので、化学物質のCAS番号の利用をお勧めします。

以上のように、化学物質には、人が敬遠したくなるような、分かりにくい事柄が多数あります。そこで、皆さんの疑問、質問に回答する「化学質問箱」や、今話題になっている化学物質に関する情報を提供する「化学物質情報箱」のようなコーナーをKECAホームページ上に設けて、情報発信ができないかと検討していますので、化学物質に関する質問、疑問の提供を是非ともお願いします。

*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****∞∞∞*****

【委員会報告2】

安全衛生管理の基本セミナー開催

環境経営委員会委員長 近藤勝養

2016年2月19日（金）14時～16時30分、フクシア（横浜市西区社会福祉協議会）において、安全セミナーを開催しました。講師は坂崎洋雄委員（川崎支部）が担当しました。県内を中心に企業より19名、KECA会員2名の合計21名の参加がありました。今回のセミナーのプログラムは、前半に安全衛生の要点の説明をしました。

- 労働災害、職業性疾病の発生状況と防止のポイント
- 安全衛生マネジメントシステムのISO化の動向



□労働安全衛生法等の改正（ストレスチェック、化学物質のリスクアセスメント）

後半にはグループに分かれて、リスクアセスメントの簡単なワークショップを行いました。短時間にたくさんの内容を詰めただけ、やや消化不良となりましたが、受講者からのアンケートでは「参考になった」との感想が多くありました。

セミナーの内容、写真は KECA のブログにも掲載していますので、ご確認ください。

今回のセミナー開催案内では PR に工夫しました。KECA のホームページ (HP) の他、神奈川県環境保全協議会、中小企業団体中央会等の HP にも掲載をお願いした結果、半数近くが外部の HP でセミナーを知り参加されました。KECA の弱みの一つが集客力なので、今後も活用していく予定です。

またエコ検定受験準備講習会は、来年度も内容をレベルアップして継続して開催します。EA21 認証取得企業の社員の教育にも大いに役立つので、審査時などで PR してください。

*****★★★*****★★★*****★★★*****★★★*****

【支部報告 1】

鶴見川クリーンセンター見学報告記

横浜支部・自己啓発グループ 太田芳雄 千葉雅子

生活基盤を支えている下水道処理施設は普段馴染みがないため、鶴見川クリーンセンター（町田市：こどもの国近傍）の見学会を 2016 年 3 月 2 日（水）、会員 9 名の参加により行った。以下にその概要を報告いたします。

1. クリーンセンターの概要と質疑

クリーンセンター職員の横山氏からパワーポイントにより下記の説明を受けました。

(1) 下水処理の役割は、①生活環境の改善であり、②安全な街づくり（浸水の防除）、③美しい自然の保護（水質保全）である。下水処理には「分流式（汚水のみ）」と、「合流式

（汚水と雨水の両方）」の 2 種類があるが、町田市の場合には分流式を採用している。

(2) 当センターは平成 2（1990）年 2 月に稼働し、敷地は 20 万 m²（東京ドーム 4 個分）、処理方式は標準活性汚泥法である。処理量は 4 万 5 千 m³/日である。

(3) 町田市の人口約 42 万 6 千人、総所帯数は 18 万 9 千世帯で、その生活排水を鶴見川クリーンセンターと成瀬クリーンセンターの 2 か所で処理している。全体の処理プロセスは、（下水管）⇒沈砂池⇒最初沈殿池⇒エアレーション（微生物による活性汚泥処理）⇒最終沈殿池（スクレーパによる汚泥掻き寄せ）⇒塩素混和池（次亜塩素酸による消毒）⇒（鶴見川への放水）である。

(4) 汚泥は濃縮後、脱水機で脱水（脱水ケーキ含水率：75%程度）し、焼却炉で焼却する。焼却の際の発生ガスは、排煙処理機で処理し、煙を出さないようにしている。焼却灰はセメント原料や路盤材として利用している。焼却には灯油を用いている。

(5) その他補足説明と Q&A

①下水処理による処理水は、川の水量の 50%以上を占めており重要な役割を担っている。

②高低差を利用した自然流下方式であり、その流速は 3～10 km/h で、人がゆっくり歩く速度あるいは自転車でゆっくり走る速度に近い。

③焼却炉の熱は、現在のところ何も利用していない（設備購入予算がないため）。

④設備の老朽化対策費、保全費用が十分でないため、工夫をしながら運転を行っている。

⑤電気使用量は 1,200 万 kW/年間で、CO₂ 排出量は電気使用量換算で約 3 千トン CO₂/年である。



鶴見川クリーンセンターを俯瞰する

⑥全体の収支は下水処理負担が大きく、各家庭から徴収する下水道料金だけでは不足しており、市の一般会計（税金）から補填している。

⑦クリーンセンターからの要望

- a) 大きじ1杯の天ぷら油を魚が住める水質にするには、お風呂10杯分の水を必要とする。油は固める処理剤で固めて、ごみとして出してください。
- b) 洗車やオイル交換する際に発生した液を側溝に流してはいけない。買った店などで処理するように。
- c) 下水に混入した異物で一番厄介なのは髪の毛であり、次は繊維くずである。髪の毛の処理は厄介なので、流し口の目皿（メッシュ）で取り除き流さないようにしてほしい。
- d) 水は大切に使ってください。

2. 施設見学（クリーンセンター職員桐生氏の案内）

沈砂池及び塩素混和池は地下にあり、これらの一部施設を除いた中央監視室、最初沈殿池、エアレーション池、最終沈殿池、および焼却炉（流動床式）を見学しました。施設職員からの説明を聞いて、われわれ会員（利用者）も協力すべき事項があることを知ることができました。

正門の前で写真を撮って4時過ぎに解散、大変有意義な見学・研修会でした。



鶴見川クリーンセンター正面玄関



最終沈殿池

*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****

【支部報告2】

子ども環境体験教室～ソーラーランタンをつくろう

横須賀三浦支部 高橋弘二

横須賀市地球温暖化対策地域協議会（以下、協議会）の活動の一つに環境教育プロジェクトチーム（以下、PT）があり、会員3名が所属し活動しています〔高橋（PTリーダー）＝記、中村、小嶋〕。

主な活動として、小学4年生以上を対象に年3回（夏、秋、春休み）、子ども環境体験教室を開催しています。今年度は西行政センターの夏休み講座として、夏休み親子環境体験教室も実施しました。

協議会の事務局は横須賀市環境政策部環境企画課にあり、PTは市民会員が中心で東京電力が協力し、企画運営にあたっています。2015年度は、8月10日、19日（夏）、10月13日（秋）、3月28日（春：予定）に産業交流プラザ研修室などで開催、毎回20～24名（定員）が参加しています。

環境体験教室の目玉は、ペットボトルを使ったソーラーランタンの組み立て工作ですが、その前に「地球温暖化について」の学習、体験を行います。まず、

- (1) DVDを使って映像による「地球温暖化」の現状、基礎知識などを学ぶ。
- (2) その内容に関する〇Xクイズ（7、8問）を行います。Q：「三方海に囲まれた横須賀は、東京にくらべ真夏日が少ない」などあり、全問正解者には賞品（風力発電組立キット）をあげる。

(3) 続いて、節電・省エネの取り組み「チャレンジ宣言」を紙に書いてもらい、各班代表が発表

(4) 休憩の後、再生可能エネルギー、省エネの4つの実験を順繰りに体験

①太陽光発電、②風力発電、③白熱電球と蛍光灯に比較、④豆電球とLEDの比較

(5) ソーラーランタンづくり：教材メーカーから購入した「ソーラーランタンキット」と会員が用意したペットボトル（加工済み）を使い、指導者の丁寧な説明に従って、各グループ2名ずつのサポーターの指導で組み立てます。ペットボトルをマジックで色塗りしソーラーを取り付け、全員が完成したところで、室内を消灯して「点灯式」、淡い光が室内に灯り、一同歓声！



DVDを見た後、OXクイズに挑戦



ソーラーランタンづくり、うまくできるかな

【出前授業】

横須賀市環境教育指導者派遣事業に会員4名（高橋、中村、遠田、小嶋）が講師登録しており、2015年度は市立小学校6学校15回、市立保育園6園6回、出前授業を実施しました（3月1日現在）。

小学校の授業は、「水の循環」「身近な川・平作川」「地球温暖化」などのお話と水質検査（パックテスト）の実習、それと川の上流（平作川）体験学習では、「水質・水生生物調査」「源流探検・川歩き」を行いました。保育園（年少組、年中長組）では、「水のはなし」と「水の実験：①トイレトペーパーとティッシュペーパーの比較、②温度で変わるマグカップ、③小便小僧、④浮沈子」「水遊び体験：①1円玉浮かべ、②色々水時計、③水中的入れ、④浮沈子」を園児と一緒に楽しんでいます。

*****★★★★*****★★★★*****★★★★*****★★★★*****

【支部報告3】

2016年度支部活動計画について

湘南支部長

中本 正治

2016年度活動として湘南支部が地域の環境フェアに参加した報告は、KECA ニュース56号に記載しましたとおりです。もう一つの柱である環境教育も嶋田会員、小山会員を中心に実施されて、その活動内容の一部はKECA ニュースに報告されています。KECAの活動を通じて、嶋田会員が平成26（2014）年度かながわ地球環境賞に引き続き、平成27（2015）年度地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞されたことは、同じ支部に属する者として非常に嬉しいことです。



さて、2016年度の支部活動計画ですが、環境フェアに参加することはもちろん、環境教育などの活動において、他団体たとえば県地球温暖化防止推進員とか、上記の団体などと協働することが効果ある活動になると考えます。個人、1団体の活動より、多人数、多くの団体の活動の方が信頼度も上がり、活動の範囲が広がると高橋会員もKECA ニュース前号に記載されています。

同じことが、KECA 各支部にいえると思います。各支部とも会員が減少し、思うような活動が進まないのではないかと思います。環境フェアでも 3、4 名の支部会員が従事しているだけの場合も、他支部会員へ応援をお願いして、何とか凌いでいる場合があります。互いに助け合うことが必要ではないでしょうか。

教育も同じで、一方的に講義をして終わりでは、子供たちはそっぽを向いてしまいます。話し手と聞き手がキャッチボールをして、また、ワークショップでの物作り、ゲームなどで理解が深まると思います。多くの手助けが必要ではないでしょうか。今年は積極的に声掛けを致しますので、是非、ご協力ください。ただし、報酬、交通費は出ません。「楽しかった、ありがとう」が報酬です。

*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****◇◇◇*****

【支部報告 4】

東海大学において環境カウンセラーの魅力を解説

西湘支部長 早野 木の美

西湘支部では、支部会員が東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程の「環境カウンセラー講座」の授業で、アクティブ・ラーニング（*1）を担当しています。東海大学の自然環境課程は「人類が豊かな生活を営める自然共生社会への転換を目指し、自然科学の視点を中心に、社会・人文科学の視点を加えて、広い視野で環境に関わる問題を見出し、解決に向けた行動ができる人間力を持った人材を育成する」ことを目標としています。

アクティブ・ラーニングも最初の頃は、会員と野山を歩く自然観察会を行っていましたが、学生に理科教員を目指す者が多くなり、午後の授業に食い込んでしまうため、定例会で検討し、方針を変更しました。

ディスカッションを重視することで、環境カウンセラーの面接試験にも役立つと考えました。まず、会員が専門分野の講義を行い、次に学生が数人ずつ分かれ、各講師の元に集まって意見交換。一定時間が経過すると学生を入れ替える。この仕組みを取ることで、人前での発言が苦手な学生も積極的になれたようでした。講義終了後、学生たちに感想文を書かせます。中には感動して、短時間では気持ちを伝えきれないので、次回に提出をしたいと申し出てきた学生もいました。講義を終えた後の反省会は大変有意義なものとなっています。

私は学生たちに「環境カウンセラーの資格を取得したら、どのような環境教育の教材を使いたい、理想の教材を作成してみよう」と呼びかけ、半年かけて完成を目指し、作品を評価の対象とします。作品の発表の場として、環境カウンセラーが参画している各地の環境のイベントに出品させてもらいました。また、学生がFMラジオに出演し、作品解説や環境カウンセラーの紹介をしました。エコ検定試験にも毎年合格者が出るようになり、学生達の環境カウンセラーを目指す意気込みは上がってきています。

また、私は神奈川県で理科教育の一旦を担う神奈川科学技術アカデミーの「なるほど！体験出前教室」（*2）に、学生の作品を携えて引率して行きます。小中学生と接触することで、学生が生き生きと活躍する場面を見ることは大変楽しいものです。

最後に2年前に市民環境活動報告会でグループ発表を行ったカザフスタン共和国出身のジョルダヤコヴァ・サウレさんと環境カウンセラーの連携をご紹介します。サウレさんは環境カウンセラー講座を受講した経験があることから、カザフスタン共和国の国営テレビのジャーナリストから環境問題解決に関する取材を求められました。

カザフスタンでは今春からごみの分別が開始されます。これまでは砂漠にごみが放置されていましたが、2017年に



東京都・中央防波堤埋立処分場みはらし広場で

万国博覧会の開催も決定。早急に国民の環境意識の変革が必要ということから、環境先進国の日本がどのようにして変革を遂げたかを取材したいとのことでした。そして、カザフスタンの企業の変革に情報を役立てたいとのことでした。

これまでに、私は目黒区の環境清掃部を通じ、資源ごみの回収現場や東京23区清掃一部事務組合が所管する品川清掃工場や中防処理施設の紹介をしました。今後は西湘地区の環境カウンセラーの集まりの時に、ジャーナリストを招待し、会員が各自培ってきた様々な知見を紹介し、カザフスタンの環境問題の解決に繋ぐことができればと考えています。

*1 アクティブ・ラーニング：「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法」
文部科学省のHPより

*2 なるほど！体験出前教室：「科学の楽しさや、ものづくりの感動を子どもたちへと題し、将来の科学技術やモノづくりをになう子ども達に理科に親んでもらうため、神奈川県内の研究者や技術者などが、神奈川県内の小・中学校や特別支援学校で、体験型の授業を実施します。」



東京都目黒区のホームページより
左端がサウレさん、右端が早野さん

【事務局から】

第20回通常総会

- 日時：2016年5月14日（土）13時～16時
- 会場：波止場会館（横浜・大榎橋入口）
- 議案1：2015年度活動報告
- 議案2：2015年度決算報告
- 議案3：2016年度活動計画
- 議案4：2016年度予算書
- 特別講演：「(仮) 地球温暖化の現状と県の取組、環境カウンセラーに求められる役割」
・・・神奈川県環境農政局環境部環境計画課
- 17時～：懇親会（同会館1階）

2015年度 理事会開催

- 出席者：理事長、副理事長(2)、理事（11名）
- 2015年12月4日（金）16:30～18:30
第4回理事会 海老名市市民活動センター
出席者13名+（委任状1）
- 2016年2月12日（金）18:00～20:00
第5回理事会 フクシア（横浜市西区）
出席者13名+（委任状1）
- 2016年3月4日（金）14:30～17:00
第6回理事会 ひらつか市民活動センター
出席者11名+（委任状3）
- ※定例運営委員会（理事長、副理事長、事務局長）
理事会開催日前に開催

編集後記 ◇真冬の寒さ、一転して夏日の気温、変化の激しい3月半ば、忙しい中、日頃の委員会活動、支部活動報告に加え河野理事長巻頭言初め新年度を迎えるの抱負が届き掲載できました。◇活動報告から、受益者である市民、事業者に対する対外活動が地道に進展しつつあることが伺えます。関心のある方は、まずは各委員会、支部に顔を出し、お手伝いすることから始めてください。◇予告のように5月14日(土)に通常総会が開催されます。これまで出席したことのない方、是非、参加し、終了後の懇親会にも参加されるようお願いいたします。（高橋）

【発行】 特定非営利活動法人
かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)
理事長：河野健三／編集人：高橋 弘二
□住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1
横浜ワールドポーターズ6階 NPO 7F19
□電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825
□E-メール：37keca@kke.biglobe.ne.jp
□URL：<http://www.1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>
【年会費等振込先】
ゆうちょ銀行 口座番号 00260-9-24711